人・農地プラン

市町村名	伊陸地域	当初作成年月	更新年月(7回目)	更新年月(8回目)	更新年月(9回目)	集落・地域の耕地面積
柳井市	上長野、下長野、木部、錦、大畑、福井・勝地、北畑、宗兼、中村、奥畑、門前、泉、東宮ヶ原、西宮ヶ原、沖、恵下、平松、久可地、松山、丸山、塩田地、杉原、藤ノ木、小林、上大の口、中大の口、下大の口、大迫、南山、上竹常、下竹常	平成25年3月	令和3年3月	令和4年3月	令和5年3月	419ha

1. 地域の人と農地の現状

地域の多くが中山間地域であり、基盤整備済の農地を中心に集積・集約化は進んでいるものの、担い手不足や高齢化は深刻であり、後継者の確保も十分ではない。新たな担い手の掘り起こしを図るとともに、中心経営体に農地を効率的に集約し、作業の省力化、低コスト化を図る。また、耕作放棄地の解消や有害鳥獣被害の対策も地域で協議を進めていく。

2. 今後の地域の中心となる経営体(中心経営体)

属性	農業者 (氏名・名称)	現状 (令和4年度)		計画 (令和5年度)	
		耕作内容 (作目)	経営面積	経営内容 (作目)	経営面積
計	30 経営体	水稻等	238.5ha	水稻等	272.2ha

3. 2から見た中心経営体の確保状況

中心経営体は十分確保されている ~~中心経営体はいるが十分ではない~~ 中心経営体がない

4. 将来の農地利用のあり方

取組事項	対応	コメント
担い手に集積・集約化する	○	国営ほ場整備等基盤整備実施ほ場及びその周辺の農地を担い手に集積・集約化する。
担い手の分散錯圃を解消する	○	
新規参入を促進して、新規参入者に集積・集約化する		
耕作放棄地を解消する		
その他(右欄に自由に記載)		

5. 4についての農地中間管理機構の活用方針

取組事項	対応	コメント
地域の農地所有者は、原則として農地中間管理機構に貸し付ける	○	
農業をリタイア・経営転換する人は、原則として農地中間管理機構に貸し付ける	○	
担い手の分散錯圃を解消するため利用権を交換しようとする人は、原則として農地中間管理機構に貸し付ける	○	
その他(右欄に自由に記載)		

6. 今後の地域農業のあり方

法人の中心経営体は、水稻、大豆、麦など複合化経営を行いながら、規模拡大や低コスト化等に取り組み、経営の安定化を図る。また、新たな担い手の確保に取り組み、持続可能な地域農業経営の実現を目指すとともに、耕作放棄地の解消に向け、地域で協議を進めていく。